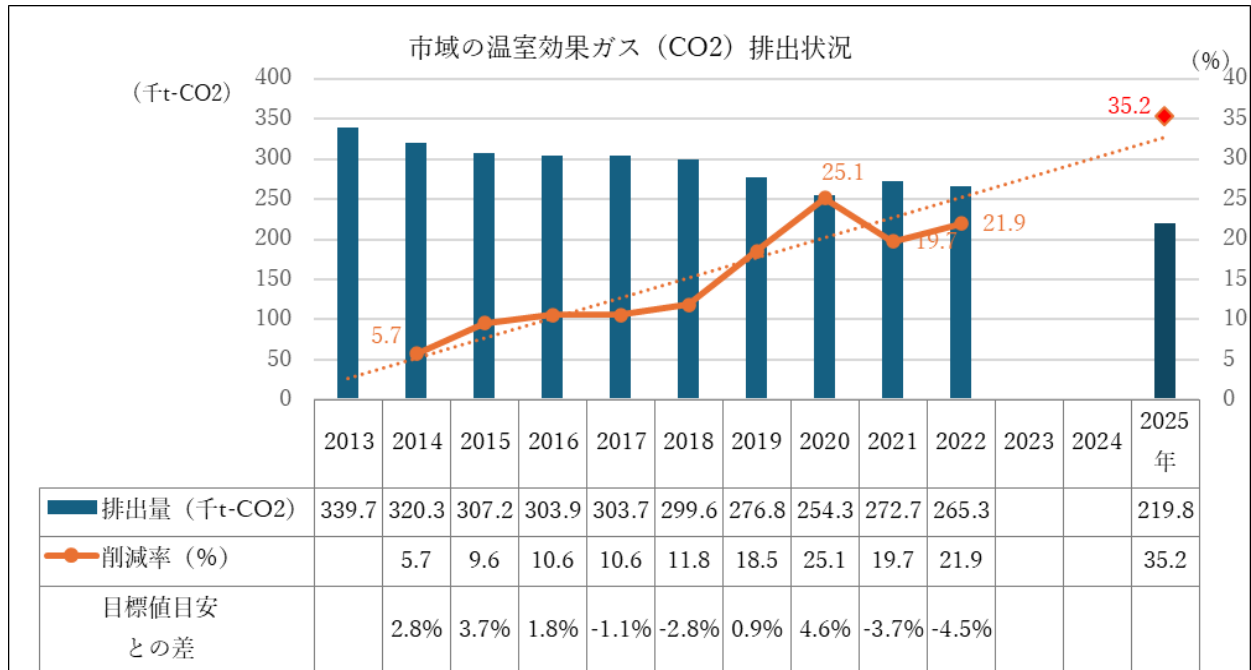


1 市域における温室効果ガス（CO₂）の排出状況

2022(R4)年度の市域におけるCO₂の排出量は、265.3千t-CO₂であり、基準年度比21.9%の削減となっています。

2021(R3)年度においては、コロナ禍からの社会経済活動の復活の影響により排出量が増加に転じ、削減目標の目安には3.7%届かない状況となりました。2022(R4)年度においても、排出量は前年度から7.4千t-CO₂の削減となりましたが、2022(R4)削減目安率26.4%に対し、4.5%届かない状況となっています。



[資料：自治体排出量カルテ]

2 市の事務事業に伴う温室効果ガスの排出状況

2024(R6)年度における温室効果ガス排出量は4757.4t-CO₂であり、基準年度比-33.5%の削減となっています。

基準年度から短期目標年度まで、毎年均等な割合で削減して目標を達成していくと仮定した場合、2024(R6)年度においては、4774.4t-CO₂(基準年度比△33.3%)が削減目標の目安となりますが、17t-CO₂(0.2%)、多くの削減を達成しました。

(単位：t-CO₂)

	【基準年度】 2013 (H25) 年度	【現状年度】 2024 (R6) 年度	【短期目標】 2026 (R8) 年度
排出量実績	7135.2	4757.4 (基準年度比△33.5%)	—
削減目標(目安)	—	4774.4 (基準年度比△33.3%)	4342.0 (基準年度比△39.3%)
削減目標との差	—	17 (0.2%)	—

3 市の取り組み

(1) 新エネルギー機器等導入事業費補助金制度

温室効果ガスの削減には、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換、化石燃料使用量の削減が大きく寄与するため、補助金制度により家庭への太陽光発電設備、電気自動車等の導入促進を図っています。

来年度においては、市の財政状況を鑑みつつ、これまでの申請状況又は傾向等から予算を確保し、多くの市民に導入の動機付けとなるよう補助制度の活用促進を図り、家庭への更なる普及を後押ししていきます。

《申請状況》

(件)

補助対象	補助額	R 4	R 5	R 6	R 7 (12月現在)
太陽光発電システム	60,000 円	20	48	42	31
リチウムイオン蓄電池	50,000 円	28	55	45	36
H E M S	10,000 円	8	17	19	17
クリーンエネルギー自動車	50,000 円	—	14	17	5
V 2 H	50,000 円	5	1	1	1
エネファーム	50,000 円	2	2	0	0

(2) 公共施設の省エネルギー

市の事務事業における温室効果ガスの排出要因として、電気の使用に伴うものが約 80%を占めている状況であり、電気使用量の削減を図るため、LED 照明への切り替えによる施設の省エネ化を進めています。

教育施設、生涯学習施設において段階的に進められており、小中学校の体育館、貸出施設（グラウンド・体育館）では照明の LED 化が完了し、保育園及び幼稚園での切替が段階的に進んでいます。今後、小中学校については導入手法、導入順を含めて校舎の LED 化を進めていく予定です。なお、現在、市役所庁舎の改修が行われており、長岡庁舎及び大仁庁舎における LED 照明等の省エネ機器への切り替えが進められています。

また、温室効果ガスの排出要因として電気の使用以外に、公用車の燃料使用に伴うものが約 4%を占めている状況ですが、現在所有する公用車 146 台のうち、次世代自動車（電気自動車、プラグインハイブリッド車、ハイブリッド車、燃料電池自動車）の導入状況については、ハイブリッド車が 2024 (R6) 年度中に導入された 2 台を含め 7 台、電気自動車が 3 台、合計 10 台が配備されています。



(3) 公共施設への再生可能エネルギー利用促進

2023 (R5) 年度より、「クリーンセンターいず」でのごみ焼却に伴い発生する熱エネルギーを利用した発電による余剰電力を使用しており、2024 (R6) 年度は、低圧電力施設を中心とした 48 施設（消防団詰所、公園施設、放課後児童教室等）に供給しています。また、高圧電力施設の内 41 施設について、購入電力の 30%を再生可能エネルギー由来の電気とする契約により、電気使用に占める再エネ率の向上を図っています。

～ 電気使用に占める再エネ率（2024 年度）～

	電気使用量	再エネ由来電気	再エネ率
① 低圧ほか 48 施設（ごみ焼却発電由来）	408,746 kwh	408,746 kwh	4.4 %
② 高圧 41 施設（再エネ率 30%電力契約）	4,276,925 kwh	1,425,641 kwh	15.4 %
③ その他施設	4,568,771 kwh	0 kwh	
計	9,254,442 kwh	1,834,387 kwh	19.8 %

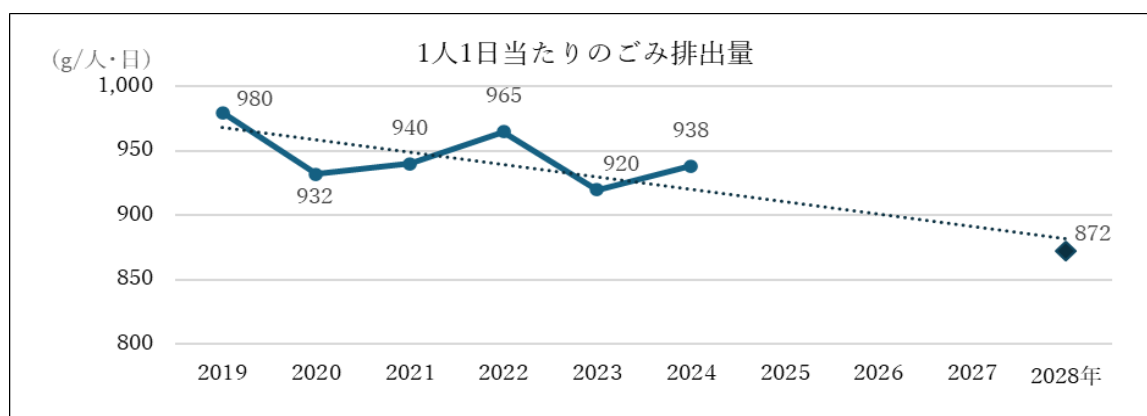
公共施設への太陽光発電設備の導入については、大仁中学校では電力供給を令和7年5月から開始しました。また、庁舎改修に伴う大仁庁舎への導入を予定しています。今後も他の公共施設への導入を促進するため、事業者の協力を得て、太陽光発電設備導入の有効性の高い施設の選定を実施しており、その調査を動機付けとして、対象施設の所管部署へ導入検討を促していきます。

2 ごみの排出量とリサイクル率

1 1人1日当たりのごみ排出量

2024(R6)年度における1人1日当たりのごみ排出量は、938(g/人・日)でした。

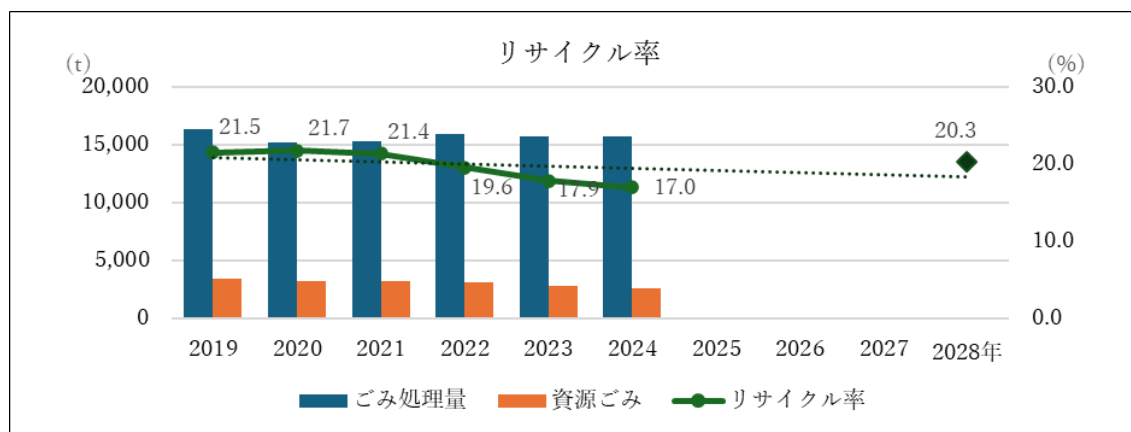
2019(R1)～2020(R2)年度のコロナ禍において減少傾向にあったものが、その後社会経済活動の復活に伴い、2021(R3)～2022(R4)年度にかけて増加に転じ、2023(R5)年度において伊豆の国市への合併以降、最小の排出量である920(g/人・日)となりましたが、2024(R6)年度は再び増加に転じました。



2 リサイクル率

2024(R6)年度におけるリサイクル率は、17.0%でした。

近年、リサイクル率は減少傾向にあり、2028(R10)年度の中間目標である20.3%には、2.4%届かない状況です。民間の店舗等での紙資源やペットボトル等の拠点回収が進み、市の回収以外への搬出先の分散化により、市としての資源ごみの回収量が減少していることが影響しています。



3 市の取り組み

令和4年1月に「クリーンセンターいず」が稼働されたことにより、布団類の焼却が可能となり、焼却処理を行っていましたが、2024(R6)年度より再使用可能なものの選別を行うことで、布団類の資源化を図っています。また、その他のプラスチック類(製品プラスチック)の一部については、今年度から焼却処理ではなく再資源化に取り組み始めており、可燃ごみから資源ごみへの転換によるリサイクル率の向上を図っております。

ごみ排出量の削減に向けては、事業系ごみの搬入における産業廃棄物混入の指導(搬入受付時の確認強化、収集運搬許可事業者への搬入ごみの展開検査)により、産業廃棄物の混入抑制を図っています。また、清掃センターへの粗大ごみ等の直接搬入において、市外からの搬入(粗大ごみ処理料が安

価なため身分を偽っての搬入)が懸念されていたことから、2024(R6)年度より受付での身元確認(身分証の提示)を厳密に行うことで、本来搬入されるべきではない市外からのごみの排除による、ごみの総量削減への対策を実施しています。

3 環境教育の取り組み

1 2025(R7)年度実施の体験講座等

事業名	概要	参加人数	担当部署
アース・キッズチャレンジ	学校での体験学習(講座+ゲーム)を通じて、家庭での省エネ生活の実践等につなげていくプログラム	71人 (1校・小5)	環境政策課
夏休み環境教室	次世代を担うこどもたちへの環境に関する知識の習得や地球温暖化問題への意識付けを目的とした、体験型環境教育プログラム(講義及び工作)	14組 こども14人 保護者15人	環境政策課
環境学習講座 (放課後児童教室)	次世代を担うこどもたちへの環境に関する知識の習得や地球温暖化問題への意識付けを目的とした、環境教育プログラム(講義及びレクレーション)	172名 (6校7教室)	環境政策課
水生生物観察会	狩野川に生息する水生生物の採取を通じた水質判定と、河川の環境保全を考える観察会	20人 (小学生)	環境政策課
花育教室	保育園、幼稚園での花の寄せ植え体験	234人 (7園)	環境政策課
花育交流	公共花壇での花の植栽体験を通じた交流 (春・秋の植替え)	61人 (1校、1園)	
花飾り教室	家庭の緑化につながる花の寄せ植え等の実践講座 (年2回の講座)	80人 (※秋のみ)	
子供教室 「あいキッズ」	「ものづくり」「あそび」「料理」「自然体験」「スポーツ」など、家庭や学校ではなかなかできない「体験」の場を提供する各種講座 ・自然素材の工作教室(クリスマスリース、ミ門松等) ・狩野川放水路探検 ・狩野川かわあそびカヤック体験 ・野外料理(ダッチオーブン)体験	114人	生涯学習課
社会科見学	ごみ処理施設の見学 ・クリーンセンターいず ・葦山リサイクルプラザ	(6校)386人 (1校)39人 計1,206人	廃棄物対策課



(アース・キッズチャレンジ)



(水生生物観察会)



(花育交流)

2 新たな取り組み等

環境政策課では、今年度、市内小学校の放課後児童教室で「環境学習講座」を実施しました。次世代を担うこどもたちへの環境に関する知識の取得や地球温暖化問題への意識付けを目的として、地球温暖化や再生可能エネルギー、家庭での省エネ等の講義を受けた後、「ストップ! 温暖化トラン

プ」を使って、「しちならべ」をグループに分かれて行いました。カード遊びを通じて楽しみながら地球温暖化について学び、その学びを日常生活の中で行動に移してもらうことを狙いとしており、市内6校7教室、172名の参加がありました。他の事業と併せて来年度も継続して実施していく予定です。

また、来年度は、大仁中学校へのPPA方式による太陽光発電設備の導入に関連して、設置事業者による出前授業の実施も予定したいと考えています。



《参考1》 アース・キッズチャレンジ実施後の感想（抜粋）

キッズ発電所で、1時間テレビを見たり、電気をつけるには、何十時間も回さないといけないから、電気を大切にしようと思います。
地球温暖化を防止するために、水を止めたりエアコンを止めたり工夫したい。
電気などを使いすぎなんだと思いました。
地球温暖化の原因がよく分かった。
エコ生活は難しいけど、自分もできる簡単なことがあったと気付いた。
思ったより、僕たちは電気を使っていることが分かった。
このままでは地球が大変だということと、いちばんCO2が出るのは、電気だということが分かった。
近くのスーパーだったら、歩いて行き、エコバッグを持つということが分かった。
地球の危機を感じ、小さい方法でもがんばれば、意味があることが分かった。
小さな結果が大きな結果。

《参考2》 夏休み環境教室実施後の感想（抜粋）

温暖化の仕組みについて、よく分かりました。エコ活動に、より真剣に取り組もうと思います。
以前は、エアコンの温度を下げたり風量を上げたりして、自由にやられ困っていましたが、この話を聞いてからはされなくなり自分で作ったランタンを毎朝充電し、夜使っています。少しでも未来が生活しやすくなるよう、できる事を頑張りたいです。